議 事 日 程

- 1 議案第44号 平成18年度兵庫県太子町一般会計補正予算（第1号）
 - 2 議案第45号 平成18年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
 - 3 議案第46号 平成18年度兵庫県太子町介護保険特別会計補正予算（第1号）
 - 4 議案第47号 平成18年度兵庫県太子町老人保健特別会計補正予算（第1号）
 - 5 議案第48号 平成18年度兵庫県太子町下水道事業特別会計補正予算（第1号）
 - 6 議案第49号 平成18年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計補正予算（第1号）
 - 7 議案第50号 平成18年度兵庫県太子町水道事業会計補正予算（第1号）
 - 8 議案第51号 町道路線の認定について
 - 9 議案第52号 公の施設に係る位置表示の変更に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
 - 10 議案第53号 会社法の制定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
 - 11 議案第54号 太子町行政手続条例の一部を改正する条例の制定について
 - 12 議案第55号 非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - 13 議案第56号 水道事業所の統合に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
 - 14 議案第57号 介護保険法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
 - 15 議案第58号 太子町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
 - 16 議案第59号 太子町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - 17 議案第60号 太子町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - 18 議案第61号 太子町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 本日の会議に付した事件
- 1 議案第44号 平成18年度兵庫県太子町一般会計補正予算（第1号）
 - 2 議案第45号 平成18年度兵庫県太子町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
 - 3 議案第46号 平成18年度兵庫県太子町介護保険特別会計補正予算（第1号）
 - 4 議案第47号 平成18年度兵庫県太子町老人保健特別会計補正予算（第1号）
 - 5 議案第48号 平成18年度兵庫県太子町下水道事業特別会計補正予算（第1号）
 - 6 議案第49号 平成18年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計補正予算（第1号）
 - 7 議案第50号 平成18年度兵庫県太子町水道事業会計補正予算（第1号）
 - 8 議案第51号 町道路線の認定について
 - 9 議案第52号 公の施設に係る位置表示の変更に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
 - 10 議案第53号 会社法の制定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
 - 11 議案第54号 太子町行政手続条例の一部を改正する条例の制定について
 - 12 議案第55号 非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

- 13 議案第56号 水道事業所の統合に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
- 14 議案第57号 介護保険法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
- 15 議案第58号 太子町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
- 16 議案第59号 太子町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 17 議案第60号 太子町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 18 議案第61号 太子町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

会議に出席した議員

1番	上 山 隆 弘	2番	服 部 千 秋
3番	長谷川 原 司	4番	井 村 淳 子
5番	中 井 政 喜	7番	橋 本 恭 子
8番	寺 本 明 男	9番	横 田 六 郎
10番	井 川 弘 美	11番	花 畑 奈知子
12番	佐 野 芳 彦	13番	首 藤 亨
14番	村 田 興 亞	15番	橋 幸 孝
16番	桜 井 公 晴	17番	北 川 嘉 明
18番	熊 谷 直 行		

会議に欠席した議員

な し

会議に出席した事務局職員

局 長	山 本 修 三	書 記	木 村 和 義
書 記	蛭 井 のり子	書 記	藤 井 仁 美

説明のため出席した者の職氏名

町 長	首 藤 正 弘	助 役	八 幡 儀 則
収 入 役	山 本 国 男	教 育 長	圓 尾 哲 一
総 務 部 長	佐々木 正 人	生活福祉部長	丸 尾 満
経 済 建 設 部 長	富 岡 慎 一	教 育 次 長	塚 原 二 良
財 政 課 長	香 田 大 然	上下水道事業所・水道事業所長	西 村 隆 志

(開議 午前10時00分)

議長(熊谷直行) 皆さんおはようございます。

平成18年第3回太子町議会定例会第3日目におそろいでご出席いただき、ありがとうございます。

ただいまの出席議員は17名です。定足数に達していますので、ただいまから平成18年第3回太子町議会定例会を再開します。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手許に配りましたとおりです。

これから日程に入ります。

~~~~~

日程第1 議案第44号 平成18年度
兵庫県太子町一般会計補正予算(第1号)

議長(熊谷直行) 日程第1、議案第44号平成18年度兵庫県太子町一般会計補正予算(第1号)を議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 補正1号に関しまして、一つは国庫支出金の関係で2,750万円の減額ですが、揖保線の道路整備事業の減に伴うってということなんですけれども、これは全体的には本来予定どおり進めるべきものでありますのに、なぜこういう形になったのか、具体的な理由の説明を求めます。

それで、あわせて、これは起債の関係にもそれぞれ絡んでくるわけですが、今調査をされたりしている用地の調査の方も進んでいるわけですが、延伸されますと、さらに全体的には進捗がはかばかしくなるわけですので、基本的に理由と、またそれに対する町の対応っていうのが求められると思うんですけども、その点について説明を求めます。

それから、斑鳩小学校の北館改築工事の事業の補助対象単価ですが、その単価の改正、引き上げによって基金の繰り入れなども減額するわけですが、単価の改正と単独事業の減ということについて具体的に説明を求めます。

それから、地域福祉基金をさらに投入をして保育所整備工事をやるってことなんですけど、当初にも申し上げましたように、地域福祉基金っていうのは目的を持ってつくっている基金でありますし、また、それが一つの他の施策を展開する上で大事な基金でもありますので、これを使うってことはいかなものかと私、また再度言います。

公共施設建設基金がたまたま斑鳩小学校との関係で2,000万円減額があるわけですし、本来公共施設ですから、公共施設の基金を使って整備するべきだと、目的どおりすべきだと思うんですが、その点について説明を求めます。

それから、障害者福祉費のいわゆる自立支援システムは必要なことなんですけれども、西播磨でのデイサービス、これは非常に障害者にとっては、また障害者自身は行動ができない、具体的に自力で行動ができない中で保

護者等が大変不便を感じるわけですから、これでいいのかどうかという点では疑問が残るわけです。ああいうところに造ること自体が問題だと思うんですが、施策は大事なんですけれども、そこに集約することの方が問題だと思いますが、その点いかがか。

それから、教育長に教育基本法の関係で再度お尋ねしたいと思います。

先日は私もちょっとうっかりしとりまして、答弁がございました内容をさらに言うことを控えたような形になりましたんですが、その後の全国的な動き、それから、たまたま朝日新聞が全国調査をやっているのはご存じでしょうか。その全国調査の中で、9日に発表した資料の中で、全国で国を愛する心情ということを感じているところが13都道府県、39市区町村、190校ほど。そこでもかなり是正をしているところが出てきているというようなことであります。

学校教育法からいえば、課題としては郷土というものが出てくるわけですが、その資料の中で、いわゆる朝日新聞の報道の中で、たまたまこれとはほかにということで、190校以外にも兵庫県たつの市、太子町の計22小学校と云々。釜石っていうところがあるんですが、ここでは教科学習ではなくて生活の様子、行動の様子の項目で規則の尊重や公德心と並べて、郷土や我が国の文化や伝統を大切にすることを評価対象にしていると、こういうふうに報道しております。

先日の答弁でも、小学校については揖保が同一歩調をとっていると、こういうふうに答弁がありました。

これは福岡県の例を私はとったわけで、さきにはとったわけですが、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」の例えと同じように、横断的にこういう通知簿の様式をつくって、どこもやっとなやからというような取り組み自体が問題だし、内心の自由、内心の評価っていうのがいかに難しいかということが皆わかったということで、やめていってるところが出てきているというのが今の実態だと思うん

です。

そういう点から、教育委員会として見解を、前にお尋ねしたんですが、これらのことについては、内容については教育委員会が再考を求めたり、いろいろしているところがあるようです。

また、ところによっては、学校長にそれぞれお願いというような形で是正を要請しているところ、そういうようなことで数が変化していているというのが実態だと思うんです。そういう点から、学校運営という面で再度対応を求めたいと思います。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（岡岡慎一） 揖保線の減額についてのお尋ねでございますけども、これにつきましては県全体の交付金の総額が今年度には不足しております、県との協議の中で半減させていただいております。

それと、進捗を急ぐために、この残額についてはということなんですけども、これにつきましては19年度にこの減額分を上乗せしまして要望いたしております。

それでもちまして、22年度を完成を目標にして頑張っていくということでございます。

以上でございます。

議長（熊谷直行） 教育次長。

教育次長（塚原二良） 2点目の斑鳩小学校の北館改築工事の件でございます。

全体的な当初の事業費といたしましては、3億9,400万円程度でございます。その中で、まず補助基本額といたしまして2億3,169万5,000円ほどが対象になったと。今回はそれに単価補正がかかりまして全体的には対象額が2億5,949万2,000円ということで、その内容的な補助基本額の上った要因です。

それにつきましては、基礎工事のくいだとか冷房、また門、それとエレベーター関係、それと解体工事、それと一時的なプレハブ工事等々でございます、それに伴う単価が今回は補正で補助対象に、国庫負担の対象になったということでございます。

以上でございます。

議長（熊谷直行） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 地域福祉基金の目的云々ということのご質問でございますが、公共施設基金を使うべきではないかというご指摘を今受けたわけですが、この保育所の整備工事につきましては現行地域福祉基金のうたっております地域福祉の向上という性格のものでございますので、私はこの地域福祉基金を使うということにつきましては妥当というふうに考えております。

それと、西播磨でのデイサービスにつきましてはの今お尋ねがございました。

保護者が不便を感じておられるところの中で、西播磨に集約するのはいかがなものですかということなんです、この地域条件につきましては、県レベルでは大体人口30万人程度の地域を障害福祉圏域ということで位置づけをしております。一方、療育事業そのものは第一義的には市町の事務であるということも同時に申しております、そこで、太子町を含め西播磨4市3町が共同してこの児童デイサービスを行うということの、4市3町での、県を交えてですが、結論に至ったということでございます。

これまでも、議員ご指摘の向きのご意見は私も伺っております、非常に距離からいいまでも不便をかこつということでございます。18年、19年度、2年間につきましては児童デイサービスの先行事業ということで、相談、評価の業務を中心に先行するんですが、本格実施、20年4月からの本格実施のときの見通しといたしますか、今ご心配をされている向きもあるかと思いますが、当然利用予測につきましては予測がつかないというのが現状でございます。当分の間、保護者のご協力を得まして、効率的な運営を心がけ、それから、現在福祉会館で実施をしております本町での個別療育訓練につきましては続けたいというふうに考えております。

いずれにいたしましても、20年4月からは

両方の利用状況等を分析させていただいて考えたいというふうに思っております。

以上でございます。

議長（熊谷直行） 教育長。

教育長（圓尾哲一） 今さっき、桜井議員から出た件なんですけど、本町の小学校においては4年生以上において揖籠の統一のものを使っております。私はその中での言葉は、行動の様子というところでこんなふうになつてます。そのまま読み上げます。「規則を尊重し公德を大切にするとともに、郷土や我が国の文化や伝統を大切に、学校や人々の役に立つことを進んで行く」、私はこれは別に問題がないと思います。

国家統制的な言葉も入っておりませんし、自分の国を愛する、あるいは郷土を愛するということは、教育の中で指導しても、私は当然だと、そんなふうだと思います。

ただ、桜井さんが心配される向きのように、思想統制とか言論統制の方向に向かうようじゃぐあい悪いと、そんなふうを考えております。

以上です。

議長（熊谷直行） 桜井議員。

桜井公晴議員 先ほど尋ねておりますように、学校教育法上、教育長に、学校教育法上で目的を達成するために学校教育法はそういうことも、郷土の問題も触れてあるわけですね。だから、それ自体を私は言ってるわけじゃないんです。

内心の評価というのはどこも難しいと、こういうことはその気持ちがあるかどうかなんてことは、気持ちがあるといえばあると言うし、ないといえはないと言うし、非常にそれぞれ3段階で評価すること自体が難しいし、どういう権利があって評価をするのかと、個人を断定するのかということになるわけですよ、いかにしても。

だから、そういう面は、先ほどおっしゃるように、人々それぞれが郷土を愛したり地域を愛するというのは、それぞれが心の中で思い、また、それが行動にあらわれてきたり、

黙って、それを思っている人もあれば、いろいろあるわけです。だから、そういう内心に触れることが問題だということで、評価をするに当たってもそういう断定することはできないようなことをやってはいけないと。

だから、私は学校教育法に触れてるようなことを否定しているわけじゃありませんし、また、それを指導したり全体的なルールを培っていくように、養っていくように指導していくこと、そのことを否定しているわけじゃないんです。それを具体的な評価を行うことの方が、むしろ教育者の中でも評価は難しいと、やればやるほど悩むというふうに言われているぐらいなものだということで、私はよく考えてみるべきものではないかということを使うとんです。

それで、同じようなことをやっているところでも、やはり考え直さないといけないなあとということで教育委員会なんか調査をしたり、一緒になって考えていこうということで取り組んでいるケースがあちこちで出てきているんです。

愛知県なんかでもそういう取り組みは、さらに今強まっております。朝日の報道以降もそれぞれあちこちでその問題が表面化し、心の問題にかかわる評価っていうのは、非常にやることによって大変なことを起こすという意味も含めて、よく検討し、整理が必要なんではないかということで尋ねてます。

それから、揖保線は、何でこんなこと今言うかといいますと、具体的な地域の調査に入ったりして進むものと思っているものが進まない、さらにおくれるっていうことになれば、今の国家財政、それから県財政からいって今の説明なんですけども、次年度要望したからいうて、それが確実に今年度分が取り返せるという、それは裏づけあるんですか。その辺も含めて説明を求めます。

それから、地域福祉基金、これは地域福祉、福祉の向上といえれば何でもそういうふうになるんです。しかし、ここには公共施設、きょうの、今回の補正の中にもありますよう

に、公共施設建設に関する基金があるわけですから、福祉施設は公共施設でないということじゃないですね。だから、施設を整備するときには、調査とかには前の基金を仮に使ったとしても、建設の具体的なものに、改修の具体的なものに基金をつぶすことに私は異論を唱えとんです。

その辺のところをはき違えないようにしていただかないと、すべてが福祉であるということになると思うんです。だから、そういう面でこれをつぶすことはいかなものかと。前にも言いましたし、今も言ってるということなんですよ。その辺、勘違いしないようにしていただきたいし、また、対応すべきだと、このように考えます。

それから、これはテクノのことですが、高等学校、姫路工大の高等学校があっこへ行って、その年代の子供でもあそこは困ると、それで親が送り迎えをせなあかんときがしょっちゅうあると、そういうような状況のどこへ持っていくのはどうかという意味を言うんですよ。

改めて本当に、特に障害者と障害者を持つ保護者等がこれでよしとするようなものではないと、もうテクノのペンペン草が生えたところがあいとるからといって、あっこへ何でも持っていったらいいように、企業庁の言うようにいく問題ではないように思うてますので、尋ねてます。いかがでしょう。

議長（熊谷直行） 教育長。

教育長（圓尾哲一） 学校教育法のことをおっしゃったんですが、当然それは存じ上げております。家族を愛するだとか、郷土を愛するだとか、伝統文化を愛するということが書いてございます。

それで、この件については、この通知票では10項目、行動の様子を評価するところがあります。ただ、その10項目を優劣をつける評価にはなっておりません。すぐれているところ、特に特出に目立つところを3つないし5つを丸つけるようになっております。

ですから、桜井さんの心配なさってる優劣

をつけるような評価にはなっていないことを申し述べておきます。

それから、この件に関しては、今国会でまだこれから審議継続になる問題ですので、当方の教育委員会でもまた議事として慎重に審議を深めていきたいと、そんなふうに思います。

以上です。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 揖保線の19年度の担保といたしますが、その件ですけれども、揖保線につきましては、ご存じだと思いますけれども、橋梁があり、沖代がございます。ですから、全体として完成を見ることがぜひとも必要となってきます。ですから、県の方も十分承知しておりますので、太子町の要望も十分聞き入れられるだろうと、それでもって完成を同時にやっていくといったことで考えております。

以上です。

議長（熊谷直行） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 地域福祉基金の件でございますが、桜井議員さんのお考えはそういうふうに聞かせていただきますが、私どもも繰り返すようですけれども、この基金目的に沿ってあるというふうに解釈をいたしております。

それと、西播磨のデイサービスの場所の関係でございますけれども、企業庁の言うとおりというぐあいではございませんが、やはりこの西播磨での拠点施設ということになってまいりますと、4市3町含めまして、場所の設置については今度整備をするところに行くということでございまして、県の主導というばかりではございません。拠点施設の位置ということでご理解をいただきたいというふうに思います。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありますか。

12番佐野芳彦議員。

佐野芳彦議員 確認を含めて1点だけ質問させていただきます。

8ページの石海保育所整備工事費追加の件ですが、ここでは提案説明では耐震強度不足による工事費の追加と、こういうふうに説明があったんですが、確かに保育所施設はゼロ歳児から5歳児までの一番弱い幼児を預かる施設であるので、絶対的に私も耐震強度は必要であるというふうに考えます。

それで、4点ちょっとお伺いしたいんですが、阪神・淡路大震災以降、公共施設の耐震調査、特に幼稚園、小学校、中学校の耐震調査は行っていたのじゃなかったのですかね。私の勘違いでしょうか。

現に斑鳩小学校北館では耐震強度調査結果によるもので建てかえが現在行われております。

石海保育所は今回の補正で追加になっているのでちょっとお伺いするんですが、その点を確認いたします。

それから、2点目は現在の耐震強度は幾らだったのか、現状ですね。

それから、今回補強する強度基準、これは震度でちょっとわかれば教えていただきたいんですが、強度基準は幾らに設定しているのか、補強の設定ですね。

それから、3点目は、補強部分は一部なのか、建物全体なのか。

それから、4点目は、今回の耐震補強工事の追加によって、9月に開園をしようということで現在工事を進めているんですが、2カ月間にこの工事が完了するのか、開園におくれを来すことはないのか、その4点、質問をいたします。

議長（熊谷直行） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 1点目の耐震調査の件ですが、小学校、中学校は調査をされたというふうに思いますが、幼稚園につきましては耐震調査は行っておらないというふうに思っております。

今回の旧石海南幼稚園につきましては、そういうことで耐震調査を春、行いました。

2点目のお尋ねでございますが、それでは、その強度はどんなものだったかというこ

とですが、数字的にはIS値が用いられておりまして、0.3というのが出ております。これを基準に当てはめると、非常に破壊の危険性が極めて大きいという数字でございました。

今回、この補強をするに当たりまして、どれだけの強度設定をされておるかということですが、一応0.6の強度設定でもって補強をします。0.6といいますと、破壊の危険性が極めて少ないという数字になるんですが、通常では1.0というのを目指すのが通例ですが、全面的なものには至りません。一応破壊がまずないだろうという0.6という強度を設定をいたしております。

それで、補強の範囲でございますが、一部なのか全体ということになるんですけども、今回そういう数字が出ましたもんですから、範囲といたしましては全部ということになります。

その補強程度によりましてそれぞれ柱の強度増ですね、柱を結局太するところやら、はりも含めまして、それから耐力壁を新たに設けるとか、そういった措置を全館にしていまいります。

それと、4点目、工期の関係でございますが、9月開所ということで時間的には非常に切迫をいたしておりますが、何とか9月開所には間に合うだろうという見通しを持っております。

以上でございます。

議長（熊谷直行） 12番佐野芳彦議員。

佐野芳彦議員 数値で0.6と、このちょっと私理解、わかりにくいんですが、例えば阪神・淡路大震災級の震度には耐えられるということですか、0.6という数値は。

議長（熊谷直行） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 今申しましたように、壊滅的な破壊というのはないという数字でございます。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありますか。

9番横田六郎議員。

横田六郎議員 一つ二つほど聞きたいんやけども、まず10ページの道路維持費の工事請負費、多分これ沖代線の補修という話だったと思うんですけど、これ確かに結構なことなんですけれども、ちょっと詳しいことは忘れましたが、委員会でね、経済建設常任委員会で多分発言あったと僕は記憶しとんやけども、富岡部長になってからやったと思うんやけどね、そのときの状況は委員でない議員がしゃべとんやね、議員が。そして、質疑の問題の中での発言じゃなかったと思うんや。休憩中にあったと思うんやね。ほいでね、これ悪口で言うとな違うよ。あの発言があつてこういう予算を組んだんか。

町長、あすこを通して通勤されとんだろと思うんやけど、あれは相当前から傷んでましたわな。当初予算になぜ組めなんだんかなと。人が変わればすべて変わるというのもあるんやけどね。

今言いましたように、指摘があつて補正を組んだんか、それとも自主的に、これはもちろん自主的だろうと思うんやけどね。あれはなぜ、当初予算に組めるような場面やったと思うんやけどね。だから、指摘があつてやったかいなあという気がするんや。おまけに、発言したやつが、いや、ごめんなさい、発言した人が委員でなかったんや。そういうこともよからぬ解釈するわけやね。一種の圧力や。それはまさか「うん」とは言うてないやろと思うんやけども。

この補正は悪いと言つとるんじゃないですよ。いいことだと思ふんです。だから、こういう、ああいう場面があつたら、どこでも平等にやるんだなと、だれかの指摘がないとやらんと、そんなもんじゃないと思ふんで、あえてそれをお伺いします。

それと、毎年繰り返されるんですけども、この期の補正予算の中に異動の話で給与、手当の予算変更が生じよんやね。歴代の権力者、人事権を握っている方は、後でおっしゃるのは、ほとんどが適材適所ということが言われるんやね。ところが、本当かいなあ

と思うような場面が時々あるというように僕は思いました。

そこで、今回単独元年と言われるような言葉が聞かれるんやけども、今回の異動はどういうようなお考えで異動なさったんか、お聞きしておきます。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） 異動の件でございますが、やはり私自身は職員がその場、その部署部署で、それぞれの力を発揮していただくということで配置をさせて異動をさせていただきました。

そしてまた、今こういう時期でもございます。私は広い分野で職員にそれぞれの行政の職務を承知おき願いたいというのも一つにあります。若い時代、年齢では、やはりいろいろな部署を経験していく必要もあろうということで人事をさせていただいております。

それと、沖代線の関係でございます。

実は当初に予算の要求がございました。しかしながら、S E Dの工場の関係、送水管の関係も含めて、少し今早急にやらずに先送りをすべきではないかということで、もつたろうという予測のもとでさせていただいております。私も毎日通っており、あのカメの甲がだんだんとひどくなりまして、それが剥離し出したということで、特にまた、あそこは大型が通りますんで、それが一つ一つめくれてた部分もございますし、これはやらなくっちゃいけないなというようなことで、上乘せをして取り組みもさせていただきました。

そうする中で、次から次へとそういう箇所が出てきたということで、これはもう早急にやらないと、もし飛散でもすれば大きな事故につながろうということで、最終的にこうした対応をさせていただいたというところでございます。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、本日の質疑はこの程度にとどめます。

~~~~~

日程第2 議案第45号 平成18年度
兵庫県太子町国民健康保険特別
会計補正予算（第1号）

議長（熊谷直行） 日程第2、議案第45号
平成18年度兵庫県太子町国民健康保険特別会
計補正予算（第1号）を議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に
提案理由の説明が終わっていますので、これ
から質疑を行います。

質疑はありませんか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 既に前年所得の確定で通知
が、税の通知がそれぞれ行われるという形に
なっているわけですが、今回非常に税が、特
に高齢者にとっては税の引き上げていう制
度の改正、改悪で税の引き上げに結びついて
るわけですが、今回の国保についても税
改正の、条例改正の問題も含めて減額の基本
的な、職員異動ってということだけではなし
に、減額と、それからさらに今後減額をする
可能性っていうのがあるのではないかと、財
政見通し、国保の財政見通しとしてどう見て
るのか、説明を求めます。

議長（熊谷直行） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 今国保全体の
会計での財政見通しというお尋ねだったかと
思いますが、今般、改正をお願いしたわけで
ございます。特に昨今の医療費の動向を見て
まいりますと、非常に危惧を抱いております。
本町での見通しでございますが、構造的
には何ら楽観できるものではないというふう
に思っております。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありませ
んか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、本
日の質疑はこの程度にとどめます。

~~~~~

日程第3 議案第46号 平成18年度

兵庫県太子町介護保険特別会
計補正予算（第1号）

議長（熊谷直行） 日程第3、議案第46号
平成18年度兵庫県太子町介護保険特別会計補
正予算（第1号）を議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に
提案理由の説明が終わっていますので、これ
から質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、本
日の質疑はこの程度にとどめます。

~~~~~

日程第4 議案第47号 平成18年度
兵庫県太子町老人保健特別会
計補正予算（第1号）

議長（熊谷直行） 日程第4、議案第47号
平成18年度兵庫県太子町老人保健特別会計補
正予算（第1号）を議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に
提案理由の説明が終わっていますので、これ
から質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、本
日の質疑はこの程度にとどめます。

~~~~~

日程第5 議案第48号 平成18年度
兵庫県太子町下水道事業特別
会計補正予算（第1号）

議長（熊谷直行） 日程第5、議案第48号
平成18年度兵庫県太子町下水道事業特別会計
補正予算（第1号）を議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に
提案理由の説明が終わっていますので、これ
から質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、本
日の質疑はこの程度にとどめます。

~~~~~

日程第6 議案第49号 平成18年度

兵庫県太子町前処理場事業特別会計補正予算（第1号）

議長（熊谷直行） 日程第6、議案第49号平成18年度兵庫県太子町前処理場事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、本日の質疑はこの程度にとどめます。

~~~~~

日程第7 議案第50号 平成18年度兵庫県太子町水道事業会計補正予算（第1号）

議長（熊谷直行） 日程第7、議案第50号平成18年度兵庫県太子町水道事業会計補正予算（第1号）を議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、本日の質疑はこの程度にとどめます。

この際、暫時休憩いたします。

（休憩 午前10時40分）

（再開 午前11時20分）

議長（熊谷直行） 休憩前に引き続き会議を開きます。

~~~~~

日程第8 議案第51号 町道路線の認定について

議長（熊谷直行） 日程第8、議案第51号町道路線の認定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

13番首藤亨議員。

首藤 亨議員 いわゆる取り合い道路って

いうんですか、クリーニング屋の前側にある道路、旧道と新しい県道との間の取り合い道路は一体どちら側に属するんですか。この認定の中にはないんですけども。

議長（熊谷直行） 部長、いいですか。

（首藤亨議員「意味わかる」の声あり）

暫時休憩します。

（休憩 午前11時21分）

（再開 午前11時22分）

議長（熊谷直行） 休憩前に引き続き会議を開きます。

経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） その点につきましてにはちょっと資料がございませんので、委員会におきまして説明させていただきます。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はございませんか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 これ、いわゆる新道と旧道の、まあ旧道の町道認定ということでやるんですけども、あの道全体としては受け取るにふさわしいように整備されとうかいね。そうされとうと思いませんか。その辺、当局としての見解だけは聞いときたいと思うんです。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 以前の県道でございますけども、これを太子町が引き取るわけなんですけども、過去2回、平成8年と平成16年に手直しですか、協議しまして手を入れておりますので、太子町としては問題ないというふうに考えております。

以上です。

議長（熊谷直行） 16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 実際は歩道を含めて一定の整備を行った上で受け取るっちゅうのは、あちこちで受け取るに当たって取り組んでいるケースがあるんですけど、北の方なんかはもう歩道もないんですよ。ありますか、役場のそこら辺。私はそういうことも言うんですけど。きちっとすべきことをして受け取ると

いうことじゃないのかということをお願いです。それで一人前の道路と言えますかということをお願いですよ。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 道路として歩道が完全に整備されておれば龍野線も必要ないといったことで、やはり、ですから新設道路が完全に整備されて拡幅ができないと、過去の道路というんですか、今町道に引き取る道路の拡幅ができないといったことから龍野線の新設道路になりまして、現状としては歩道がない部分もありますけども、やむを得ないといったことでございます。

以上です。

議長（熊谷直行） 16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 おかしいわ、全然。

その新幹線をつける時からちゃんと隅が切ってあるんや。それは計画道路なんや。それと、今の御津線を一緒にしたらあかんがな。拡幅ができないから新道ができたんと違うで。違いますよ。どこでそういうふうになってます。幹線計画から始まってんやから。おかしいこと言いなはんなよ。何が拡幅ができんからや。

議長（熊谷直行） 意見言うただけやから何か質問、考え方。

（桜井公晴議員「いや、それが質問や、何言うとなや言うとなや」の声あり）

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 先ほどの件ですけども、基本的には、その昭和32年に都市計画決定の道路として龍野線がございます。

しかし、その龍野線は計画された時点で、旧県道が周囲に家が建ち並んでおります。そういった過程で広げられないといった状況の中で都市計画道路が昭和32年に……

（桜井公晴議員「違う、違う、そないこと、おかしいわ」の声あり）

決定されてるわけです。

それと、現道、旧県道が道路として使用されておりまして、通常の道路として使用でき

るんであれば太子町としましても問題なしに引き取るといったことでございます。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありますか。

13番首藤亨議員。

首藤 亨議員 ご承知だと思んですけど、小野のたばこ屋さんから小田店、いわゆるあそこまでの水路にふたをして、歩道となってるんですけども、あれは道路敷ですか、水路敷ですか、どういう見解でしょう。わからなかったら委員会で結構です。引き取る際。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 私が聞いておりますのは歯医者ですか、歯医者さんから北への道路につきましては、水路の上の歩道につきましては歩道という見解で聞いております。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第51号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり経済建設常任委員会に付託することにしたいと思ます。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、議案第51号は経済建設常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第9 議案第52号 公の施設に係る位置表示の変更に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

議長（熊谷直行） 日程第9、議案第52号 公の施設に係る位置表示の変更に伴う関係条

例の整備に関する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(熊谷直行) 質疑なしと認めます。お諮りします。

ただいま議題となっています議案第52号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり総務常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(熊谷直行) 異議なしと認めます。したがって、議案第52号は総務常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第10 議案第53号 会社法の制定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

議長(熊谷直行) 日程第10、議案第53号会社法の制定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(熊谷直行) 質疑なしと認めます。お諮りします。

ただいま議題となっています議案第53号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり総務常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(熊谷直行) 異議なしと認めます。したがって、議案第53号は総務常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第11 議案第54号 太子町行政手続条例の一部を改正する条例の制定について

議長(熊谷直行) 日程第11、議案第54号太子町行政手続条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(熊谷直行) 質疑なしと認めます。お諮りします。

ただいま議題となっています議案第54号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり総務常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(熊谷直行) 異議なしと認めます。したがって、議案第54号は総務常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第12 議案第55号 非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議長(熊谷直行) 日程第12、議案第55号非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 ちょっと確認をしておきたいんですが、監獄法と刑事施設、監獄と刑事施設という使い分けの必要性が生じたのはどういうことだったですかね。

議長(熊谷直行) 総務部長。

総務部長(佐々木正人) 制定の趣旨につ

きましては、名古屋刑務所における受刑者死傷事件を契機としまして、被収容者の処遇のあり方が問題となりまして、以前からそういった問題につきましての検討がなされていたということで、今回そういった文言につきましての整理があったということでございます。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第55号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり総務常任委員会に付託することにしたいと思っております。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、議案第55号は総務常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第13 議案第56号 水道事業所の統合に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

議長（熊谷直行） 日程第13、議案第56号水道事業所の統合に伴う関係条例の整備に関する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

7番橋本恭子議員。

橋本恭子議員 この間ちゃんと上程の説明でありましたが、2点ほどお聞きいたしたいと思っております。

この統合することの改正理由はよくわかりましたが、今、4、5、6、3カ月見られて、そしてやはり決算の方法とか事務的なことでこういう統合ということに理解しており

ますが、統合した場合、水道事業の全般について水道事業所がこの18年3月27日10時から老原浄水場の竣工式を3年かけてしましたが、また今後の沖代と老原の水源地の整備事業、それから、北配水池修理事業が18年、19年、20年度にあって、そして吉福の水源地の整備事業が第4次拡張で22年、23年とあるわけなんです。これに関して統合することに対して支障がないかということと、それから、今水道事業所の上下水道の所長さん来ていただいて、この議会に出られておりますが、これからは水道に関する答弁は経済建設の部長がされる、水道に関してされるのか、その2点をお伺いいたします。

議長（熊谷直行） 総務部長。

総務部長（佐々木正人） 後の議会対応ということでございますが、これは行政側としましてはそうしていただきたいということで、前回に議運の方に申し入れというんですか、そういうお願いをさせていただいております。

議長（熊谷直行） 水道事業所長。

上下水道事業所・水道事業所長（西村隆志） 3点余りの質問かなあとと思います。その中で今の現状、統合によりまして水道事業におけます現状はという問題点という形になるかと思うんですけども、事務所自体が下水と統合になることによりまして事務の利便性等も下水道事業、また水道事業含みましての利便性は生じているかなあと感じております。

それと、一つは、人員という問題も生じてくるんですけども、これについては今の段階での事務量等、考えますと、若干しんどい部分はあろうかと思っております。しかしながら、もともとおりました水道、下水道の職員も日々業務に精励という形の中で対応しているんじゃないかなあとと思います。

それと、水道事業が抱えてます今後の事業につきましては、今後水道事業という位置づけも、拡張事業の段階での取り組みは事務所が変わろうが、関係なしに事業を進めてまい

りたいと考えております。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありますか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 私はこれまでもこういうことが出てきた段階でいろいろ意見を言ったりしてきているわけですが、特に水道事業ってというのは、下水道事業とは、もう異にする事業で、水道事業の目的と位置づけってというのは、安全で安心して飲める水を安価に、いわゆる安価、低廉にして安定して供給をすると、これが使命であります。そういう点の認識は今も持つとるかどうか。

それから、そういう面をちゃんと心得ておれば、従来どおり町長が水道事業に全責任を持って事業所を直轄すべきではないかと、私はこのように考えます。いかがですか。

それから、その場合、事業所長が下水道を管理、管轄、所掌することを、私は所掌をしても構わないし、また拒むものではありません。むしろ推進すべきだと考えるわけですが、これらを推進するに当たって直轄の町長の責任等、それから、いわゆる水道事業と下水道事業を同時に行うということで事業所長が上下水道の事務を所掌する。それこそが合理的ではないかと思うんですが、いかがか。

それから、企業会計、一方は公営企業法を適用しておるわけで、企業会計に中間職が入ると料金に影響することが危惧されます。それらの解消についてはどういうふうにお考えなのか。

仕事の区分けというのは非常にしにくい面もあると思いますので、その説明を求めます。

それから、その点から助役や部長の介在そのものは決裁を迅速に行うという面からも逆行をすると、そうじゃないですか。判こが増えるだけで、迅速性に逆行すると、そう思うんですけども、どう考えているのか。

それから、これらのことについては、当初から水道事業を行っているところ、上下水道

を同時に所管している、所掌してやっているところと、それから、本町のように、今の時点で合体をさせ統合をして事務処理をするというところとは、おのずと違った対応があると思うんですけども、太子町の例も当然調べておくべきだということにしておりますが、それらのことについても説明を求めます。

太子町と同じようなところというのは非常に少ないだろうと思うんですけども、そういう点からも説明を求めます。

議長（熊谷直行） 水道事業所長。

上下水道事業所・水道事業所長（西村隆志） たくさんのご質問をいただいたんですけども、第1点目、一番最初に言われました安全で安心という形の事業推進という形は、これにつきましては今後進めていく中では絶対基本的な要素としてとらまえております。これにつきましては、そういう立場での事業推進を図ってまいりたいと考えております。

それと、会計の問題でございます。これにつきましては、上水道につきましては企業会計という位置づけでございます。それと、下水につきましては特別会計という形で処理をしているわけでございますけども、この会計上の中でいろんな水道企業会計に伴います部分につきましてはあくまで企業会計の処置としてはしていきたい、していかざるをいけないうし、そういう状況で対応していきたいと考えております。

それと、3点目の料金のあり方という形で、そういう統合によりまして水道会計に圧迫するという形の中で、それが応分また負担につながるという形の問題はないかという形でございますけれども、これにつきましては、今上下水道15名勤務をしているわけでございますけども、水道会計9名という形の人員費の運営をしております。前年より1名減という形でございますけども、料金体系につながる部分につながらないような形での人員配置は考えていきたいと考えております。

それと、決裁のあり方という形で4点目、

上がったんですけども、決裁のあり方につきましては今までどおり所長、町長という形でございます。相談等につきましては現に助役にしておりましたのが現実でございます。

それと、今回部長という形で、また今度決裁規定が変更になるわけでございますけども、大きな相談事につきましては十分今後もしてまいりたいと考えておりますので、現に大きな決裁の期間が生じるという形はないだろうと考えております。

以上です。

議長（熊谷直行） 総務部長。

総務部長（佐々木正人） 統合に当たりましての他市町の参考にしているかということでございますが、これは太子町独自の考えでございますが、一応整備上の条例とか規定の改正につきましては、そういったことをされている市町の参考にしまして整理をさせていただいております。

（「どこや」の声あり）

ちょっと県名がわかりませんが、大多喜町、函南町、三沢市、高石市、そういったところを参考にさせていただいております。

議長（熊谷直行） 16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 これは、最初私が質問しましたように、安全で安心して飲める水を安価低廉にして安定して供給をすることが使命だという、その立場は水道事業所長が答えて、僕はええと思います。それでまた、それは確認をしたかったことなので確認をしたわけですが、そのほかのことについては、これを変えようとするものが答えないとはいけません。そうでしょう。所長の答えることと違いますがな。

従来どおり、私が言うたのは、町長が水道事業に全責任を持って事業所を直轄すべきやと、そこに助役や部長を介在させることの方が、かえって合理的な決裁にも支障はあるし、行財政改革にも逆行すると。

なぜ、最初にこの水道事業経営の基本的姿勢という点で言うたかというのは、やっぱり迅速にいろいろ対応しなきゃならないことが

出てまいります。その決裁は直、町長が決裁をしていく、そういうものなんですよ。

これまでも助役が介在することによって、さらにそれは複雑にするだけで、町長が、所長が進達したものについて決裁をしてすぐ実行ができるようにというのが、また水道事業の迅速性が求められるところでありませぬ。だから、ここから町長が助役、中間決裁をする者を置いていくようなこと自体は、むしろ全体としての行財政改革にも逆行すると。

私が言うたのは、事業所長が、いわゆる水道事業所長が下水道を管轄、所掌するっていうことについては合理的に運営する上でも、これまでも技術員の、技術者の集合体をつくっていくべやというて私も言うてきたように、合理的に事務を執行するというだけでは、下水道を所管することについて私自身は悪いことではないと思ってます。

しかし、水道事業は別途確立しておかないといけないものですから、兼務で進めることとは違った対応が必要だということです。

それから、企業会計の内容と、それから、下水道の事務を進めるに当たって、区分けは非常にしにくい。相乗効果を生むということについてはいいわけですけども、どういうふうにさじかげんによるかということによっても違いますので、料金には影響しないようにするというものの、はっきりと区分けが必要なものだと思うんです。

そういう点から料金への影響を危惧するという点で尋ねておりますのと、中間職の身分がどこに当てはめるかというのは、ここで進めてしまうと、水道に部長の費用を充てたって差し支えないようになってしまうから言ってるんです。

助役もここに介在する必要はないし、それから、今までにそういう相談をして具体的に進めておったというのはおかしいです。あくまで町長の管理責任が伴う水道事業ですから、そんなことがあってはならないと思うので伺っているんです。

それから、中間職2人を置くということは、2つの職を置くということは、迅速性にも逆行するんじゃないですか。判こが増える。そんなことをして合理的運営ができないと思いますので伺ってます。

それから、太子町のこういうことをするに当たってはいろいろ研究されて、今言われた大多喜町とか三沢とか、高石、近くのところか、かみ何とかというのはどこかわかりませんが、どういふ検討をして、もし太子町と同じようなことをしておればこうなったんか、それは委員会でも説明をいただきたいと思います。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） まず、この件につきましては、この条例改正につきましては、やはりそれぞれの組織の見直しというところ、また、この行政改革の一環として取り組んだところでございます。

その中で、水道管理者、町長直轄ということをおっしゃっておりますが、やはり私はこの企業会計につきましても直轄であろうと、やはり町長という立場で決裁をするということも何ら変わりはないと、このように考えております。

その中で、町全般を考えていきますと、一つの部の中でこうして上下水道事業所を置くということは、私は逆に横の連携等々も図りながら、そして、事業を進めていく上で合理的に進んでいくんじゃないかと、このように考えております。

また、中間職等々の件もご指摘いただいておりますが、この件につきましても、先ほど所長の方から申しあげましたように、片や企業会計、一方では特別会計という性格上、そうした組織はしっかりと置いておかないといけないと、このように思っております。

そして、やはり私も町全般の業務を執行していく中で、こうした点、助役にも相談をするということは、これは今までもやってあったということは否めない事実でございます。しかしながら、今次の改正ですっきりと

した事業所が設置できるんじゃないかと、このように考えております。

以上です。

議長（熊谷直行） 16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 町長、それは違いますわ。いわゆる行政改革に逆行するわけではないんです。私は認めているというのは、いわゆる水道事業所長が両方から指示を受けるといふ立場で具体的な事務執行に当たるといふことを否定しているわけじゃないんです。むしろ推進すべきやと思います。

しかし、中間職を置くということは決裁がおくれるし、水道事業そのものに対して町長が全責任を持って事業所を直轄するということがどれだけ大事か、それは最初に言ったことを繰り返す必要はないですが、そういう面から言ってるんです。責任も伴いますと。

代決をする者をそこに置くこと自体も問題だと思えます。何ら、そういうこと自体がむしろ行財政改革に逆行する問題であると私は言っとんです。

それから、企業会計手法をとっている上水道、それから特別会計手法をとっている下水道、これは特定の歳入をもって運営をする面がいずれにもあるんですけども、企業会計手法は基本的には独立採算でやっていくといふところに違いがあります。

だから、それらのことを含めて考えるときに、垣根が作りにくいことでもありませんから、料金にも反映するし、影響するし、また、2つの職を中間に挟むこと自体が、むしろ即決していくことに対する邪魔にもなる。ほいで、経費の負担にもつながる。そういうことを言っとんですよ。それはもうはっきり言えることじゃと思います。いかがですか。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） 今桜井議員ご指摘のその中間職の件でございますが、私自身はその職員の配置等々につきましても、やはり上水と下水、そうした面は十分考慮しながら職員

配置をするべきだと。今おっしゃってますように、両方を抱き合わせて改革にならないんじゃないかということは、私はないと、このように考えております。

やはり企業会計は企業として、水道企業としてちゃんとした人員配置をし、その中での運営をしていかなければいけないと、このように考えております。

下水は当然特別会計でございますので、そうした中での決裁等々では、私は別に大きな支障は来さないと、このように判断をいたしております。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありませんか。

9番横田六郎議員。

横田六郎議員 議長、申しわけないけど、所管なんやけど一つだけ。

議会というところはお互いに話し合いの場なんで言わせてもらうんやけど、先ほどのやりとりの中で、水道所長、何で助役という言葉を出してくるん。どこにそんなこと書いてあるん。いつの間にこんななってもたん。助役なんて水道事業の中に一切なかったはずやで。いつの間にそんなことになってもたん。だれがしたん、そんなこと。

それは確かに助役は町の三役の一人ですよ、大事な仕事しとってんや。水道事業は違うんや。助役がな、わしさせえて口出したとは、わしは思わんけど。水道所長が頼りないとか、そんなこと言わへんで。何でそんなこと、いつの間になってもたん。違法やで、これ。

ほだら、逆にね、今便宜上、収入役が支払い業務やりよるわな。領収書は企業出納員や。ついでに、ほだ、収入役もいらわんかいな。何で助役だけいらうんじゃいな。

ほいでね、今聞いとると、所長の答弁で助役ということが最初から出てきたからね、既成事実をつくってこういう条例改正をしようとしとん違うか。違うで、これ。

今、ほいで、町長の答弁も聞いとって、

どうも違うわ。町長、全く逆や、言いよってのは。水道事業いうたら、もっと、まあ桜井さんと僕違うで、桜井さんと僕違うで。違うけどもね、それは違うわ。水道事業法から照らして言うても絶対違う。

それはね、ご都合主義という言葉使わへんけどやね、余りにもひど過ぎるで、これ。この条例改正はね、全部がだめだと言うてへん。ただ、今の答弁について僕言いよんでね。この条例全部が僕だめだとは言っていないですよ。ただ、さっきのやりとりのことでちょっと認識がおかしいと思うて、あえて言いよんやけど。どう思うてですか、僕の言い方を。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） これは以前から、どういいますか、水道事業所、企業会計におきましては町長が水道管理者という言葉で文言を入れております。直轄の企業会計であるというふうに私自身も認識いたしております。

決裁関係につきましても、事案等々ではそうした助役の決裁はございませんでした。しかし、今時点のこの条例改正におきましてはそうした面も出てくる、あるというところがございます。

だから、何も横田議員がおっしゃってるのが全く違うんだというあれじゃございません。当初から私も当時経済建設にありましたときも、私にはそうした権限はございませんでした。そうした面は十分承知いたしておるところでございます。

以上です。

議長（熊谷直行） 9番横田六郎議員。

横田六郎議員 法律上の話をしとんでね、相談するのは当然ですよ。助役にも、それから部長にも。これは当然ですよ。

そやけど、法律上の話で助役がどこに介在するんかいなと、部長がどこに介在するんかいなと。所長、まあ所長はなくなるんやけども、所長の権限ちゅうたら、部長じゃ、下水道も掌握しとんやろ。そんな両方またがけでできるんかいな思うわ。

下水の管理と水道の管理と全然違うと思いますよ。そもそも安全、安心、当たり前のことなんや。仮に何かあったときに、所長がおりまへんので、そんなことはもう絶対あらへんはずやけどなあ。部長、大変ですよ、これ。

だから困るんや、こんなんな、こんなん出してもうたら。引っ込めてもうたら一番ええんですけどなあ。これは意見や、答え要りません。

議長（熊谷直行） いいですか。

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっています議案第56号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり総務常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、議案第56号は総務常任委員会に付託することに決定しました。

この際、暫時休憩いたします。

（休憩 午前11時59分）

（再開 午後1時00分）

議長（熊谷直行） 休憩前に引き続き会議を開きます。

~~~~~

日程第14 議案第57号 介護保険法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

議長（熊谷直行） 日程第14、議案第57号 介護保険法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 質疑なしと認めます。お諮りします。

ただいま議題となっています議案第57号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり福祉文教常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、議案第57号は福祉文教常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第15 議案第58号 太子町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について

議長（熊谷直行） 日程第15、議案第58号 太子町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 質疑なしと認めます。お諮りします。

ただいま議題となっています議案第58号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり福祉文教常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、議案第58号は福祉文教常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第16 議案第59号 太子町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定に

ついて

議長（熊谷直行） 日程第16、議案第59号太子町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の改正についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

5番中井政喜議員。

中井政喜議員 1点だけお尋ねをしたいと思います。

10年未満の退職金が今回はこの項目の中に含まれてないんですけれども、この理由はということでお聞きしたいんですけど、いかなもののでしょうか。お願いします。

議長（熊谷直行） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） 国の方での改正の理由と申しますのが、消防団員の待遇の改善ということでまいっておりますが、これも平成17年度、昨年と同じ勤務年数、階級のところの改正となっております、国からの通知文を見ますと、17年度に引き続きということがございますので、私も思いますのは、やはりこの部分というのが昨年同様、中堅的な組織といいますが、中堅的な部分の改善ということでございますので、最も多くの方が活躍されている階層ということでの改善というふうに承っております。

議長（熊谷直行） 5番中井政喜議員。

中井政喜議員 言われる理由もわからなくてもないんですけれども、今次の中で、非常勤の消防団員という中では、それぞれ、それぞれの企業に働かれている方も多数いらっしゃると思います。その中で、今次の社会情勢の中で、自分の意志でなく会社の下命でやむなく遠方へ転勤させられるとか、あるいはまた出向させられるという中で、非常勤消防団員を退団せざるを得ないという事例が多分あるうかと思えますので、そういった方には非常に申しわけないんで、そういった方にはこういったところも何らかの手当てがあってもえ

えんじゃないかなというふうな気がするんですけども、それはいかがなものでしょうか。

議長（熊谷直行） 生活福祉部長。

生活福祉部長（丸尾 満） ご承知のように、この団員の退職報償金につきましては、政令に基づいて条例でもって支給するということになっております。

何分、政令が基準ということでございますので、やはり国の方での改善内容に沿っての条例改正ということでございますので、今中井議員さんからのご意見もわかるんですが、その政令の範囲ということでご了解をお願いしたいと思います。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第59号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり福祉文教常任委員会に付託することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。

したがって、議案第59号は福祉文教常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第17 議案第60号 太子町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議長（熊谷直行） 日程第17、議案第60号太子町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 これは公営住宅法との絡みで改正するということなのですが、本町の場合、今回引用条項の改正に伴うもので対象となるような申し込み等のものはあるのかどうか。あれば、どのところに存在するのか、説明を求めますのと、年齢引き上げというのは、それでいいのかなあとも思いますが、よりこの住宅事情の厳しい中での引き上げも問題かと思うんですけれども、その点いかがか、説明求めます。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） ただいまのご質問ですけれども、該当する方があるかどうかということでございますけれども、それにつきましては、現在のところ把握しておりません。

それと、年齢の引き上げのことですけれども、これにつきましては、やはりどういんですか、入居者に対しての優遇といたしますか

ことになりますので、これで年齢を引き上げるといのは妥当ではないかというふうに考えております。

以上です。

議長（熊谷直行） 16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 いわゆるこれがどちらに作用するかという微妙でしょう、年齢も、実際上は、50歳を対象として、それ以上の人について入居をするっていうことでいくことと、それから、対象者がわからないっていうのは、ここでは把握してない。しかし、実際は把握しとらなあかんわね。現在の入居者ちゅうのは少なくとも把握しとるといことだと思んですけれども、そういう現実に対象となる方の状況というの、これは委員会でも説明をする必要があると思しますので、その説明を再度求めます。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） 年齢の引き上げにつきましては、やはりどういんですか、入居者が年いかれても入居できるということで、やはり弱者といいますが、そういう方に対してのことに対してはいい方向になっ

ているというふうに感じております。

それと、対象者の把握でございますが、特にDVですか、その関係は当然裁判所等の関係も出てきますし、今のところは把握しておりません。その他の件につきましては社会福祉課の方では多分把握できるんだと思いたすけども、入居されるかどうかという点に関しましては、また別問題ですんで、すべての件につきましては把握いたしておりません。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありませんか。

13番首藤亨議員。

首藤 亨議員 この条例とは直接関係はないんですが、めったに町営住宅の関係のものが出てこないの、1件お聞きしておきたいんですが、かつては松尾住宅を町営住宅として建設した経緯があるんですが、3万有余の町で町営住宅が塚森のあれだけの住宅で、私は住宅政策としては不十分であると思んですが、いわゆる同規模以下の町でも町営住宅をかなり有しているんですが、町として住宅建設をしていく、町営住宅を建設していく考え方について将来もないのかどうか。

今の振興計画の中ではないんですが、今後の考え方についてお尋ねをしておきます。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） お答えします。

議員もご承知のとおり、太子町には県営住宅が相当建っております。そうした中で条件的にはほとんど一緒の条件でございますし、また、太子町には用地的なもの手だてがなかなか難しいということもございまして、また住宅の、公営住宅の建設要件等々も、どういいますか、1戸建てというような方向に変わってきておりますので、ちょっと今のところ、そうした考えは持っておりません。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑ありませんか。

13番首藤亨議員。

首藤 亨議員 町営住宅は建てていく考え

方はないというんで、私は龍田校区の問題で松尾住宅の県営住宅部分について県に要請をしていく必要があるのではないかということを行いました、今のところ、もう入居者が、たしか私の知ってる範囲内では2戸ほどだと思っております、この辺について松尾住宅を何とかしていこうという、県営住宅を何とかしていこうという考え方は、その後も変わっておりませんか。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） やはりあの狭隘な用地の中で、そうした要望、県の方もなかなか受け入れていただけないという今までの経緯もございます。ちょっと難しいということで、答弁にかえさせていただきます。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありませんか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 ここでね、太子町の場合は特別なんですけどね、今もありますように町営住宅と称するものが、いわゆる塚森に存在する8戸というだけだという点でいえば、いわゆるこの住宅政策、その今ある住宅政策が同和対策向けでつくったということ、この住宅に対する問題としては、今どういうふうにするかが問題なんですけども、属地主義、属人主義というようなことで一切差別のない形をとるということが、ここの場合は基本だと思っておりますけども、その点ではこれらのこととあわせて、その処理が必要だと思うんですが、その点いかがですか。

議長（熊谷直行） 経済建設部長。

経済建設部長（富岡慎一） ただいまのご質問ですけども、塚森に現在8戸分の町営住宅が建っているわけですけども、この条例からいきますと、だれでもそういう資格要件に合えば入居できると。現在も若干あいておりますので、そういう方の申し込みがあれば当然入っていただくと、そういう資格要件に合致すれば入っていただくということになるかどうかと思います。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第60号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり経済建設常任委員会に付託することにしたいと思いません。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、議案第60号は経済建設常任委員会に付託することに決定しました。

~~~~~

日程第18 議案第61号 太子町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議長（熊谷直行） 日程第18、議案第61号太子町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案については、6月13日の本会議で既に提案理由の説明が終わっていますので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 これは黙っとるわけにいきませんので伺います。

さきにも一般質問でも言いましたが、助役の選任責任で公判をもとにして、みずからを減給にし処分をすると、こういうことでありますが、私はいまだにその全容が明らかになっていないし、しようもしていないんじゃないかと。むしろ明らかにすることを拒んでいるとも見えます。そういう点では、きちっと全容を明らかにすることと、再発を防止する手だてを講じること、また、方向を示すことが大事だと思うんですが、その点についてどう対応するのかであります。

それから、さらにその内容を公表し、そして、みずからの処分もはっきりさせるべきではないかと、こう思うんですが、いかがか。

これは漏れ聞くところによりますと、事実関係、まだ私も確認しないんですが、当局の方は公判ということも含めて承知のようなので、一方の当事者は求刑としては3年ということも報道したということなんですけどね、その辺のところは懲役3年というようなことが出てきているようなんですけれども、その辺の事実関係を確認されているかどうかと、それとの関係もあるわけですから、説明を求めます。

私はこの処分ですべてを整理を、解決をしたというように責任逃れをしているように思えてなりませんので伺っているわけでありませぬ。

それから、ただ、処分の多寡でどうこうは言いたくありませんけれども、先日も言いましたように、直接選任をしたという責任、それから、本来入札執行に係るものがみずから執行せず、対応しなくてこういう事件を起こした、そういう責任もあると思うんです。それらのことについて説明を求めます。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） まず、この事件の全容解明ということをおっしゃっておりますが、今私どもが承知しておりますのは、競売、競争入札妨害ということでございまして、新聞報道等では以前からそういうことがあったということが報じられておる新聞もございました。

しかしながら、全容は私どもには承知するところには行っておりませぬ。そうした中で対応というところでもございまして、また、私自身も2期目の助役選任ということで選任をさせていただきました。そうしたことが私自身管理責任が問われるところでもございませぬ。十分そうした面は今後とも慎重にまた対応していきたいと思っておりますが、内容的に見える問題ではございませぬでした。そうした中で、やはり私は管理監督責任はとるべきだと

いうところで、こうした条例改正をさせていただき、減給という対応をとらせていただいております。

また、後段で質問のありました先方の、相手方の刑等々については、私ども今のところ全く承知はいたしておりませぬ。

以上です。

議長（熊谷直行） 16番桜井公晴議員。

桜井公晴議員 後の方は承知してないのは、もうそれはやむを得んことなんですけど、私はこれ何でこういうふう聞くかといひますと、今回のこの事件ちゅうのは、競売入札妨害というようなことでありますが、実際にこれまでに出されてきた経過の中では、この当事者との告発内容、それから、ここが契約を、いわゆる指名をしたり、あるいは入札に参加させている西田組とのかかわりにおいても、町長が直接この入札執行には前面に出なかったと、前助役がちょこちょこ言っていたことというのは「また頼むでと言われて、町長おってへんのやと言われたら執行せなあかんしな」と、こういうようなことでしたよ、何人かの人が聞いとると思ひますよ。だから、町長自身がもっとこの入札、契約入札に関係することに責任を負うべきことなんですよ。その負わずにやってきた結果がこういうものに結びついた、あるいは、さきに言っているような高値落札になるようなことも誘発しているわけです。

それらを戒めることもできなかったのはなぜかということをおは問ひたいんですよ。その辺は全部責任は町長にあると思ひますよ。

今回の問題だけではない、助役がいろいろ執行してきた中のすべての仕事は、町長が本来すべきことを逃げた結果として出てきてるんじゃないですか。

これはまた、これまで町にあった幹部をされた職員の、OBの方の言ですが、あいさに、町長おらん、助役おらんて執行する場合も、執行をゆだねられて入札執行する場合がありますと、そのときに、ほんまに神経すり

減らすんでっせと、疲れますよと、こういうふうにおっしゃってます。それは僕当たり前やと思う、それは。そういうことが、なれがいろいろ問題を起す。で、その放任していることが結局がこういう問題を起すことじゃないんですか。町長が本来せなあかんことをしないからですよ。違いますか。それぐらい入札執行いうたら神経とがらすもんやと言われてます。

なぜ逃げてばっかしおるんかということが、さらに聞きたい。そやけど、全容は公判のものだけじゃない、すべてみずから明らかにするようにしないといけないんじゃないですか。それが住民への説明責任やと思う。まず、説明責任と責任のあり方を明確にすべきやと、私はそない思うとんです。だから言っとんです。いかがですか。

議長（熊谷直行） 町長。

町長（首藤正弘） この件につきまして、今も公判が開かれております。その中で私もいろいろと内部的には、どういいますか、調べといいますか、聞き取りはいたしましたんですが、やはりそうした前任者の一人での対応であったというところに私は問題があるんじゃないかというふうに、このように思いますが、そうした面、これ以上どのように追及していくかというところはなかなか難しい問題であろうと、このように思います。

そしてまた、入札の執行につきましても、私何も逃げるといことはしたことはございません。入札、指名入札等々、入札制度の改善も含め、またそうした内容的にもいろいろと改善をさせていただき、今執行をさせていただいておりますが、やはりこうした問題につきましても、十分に我々も気をつけ、また

慎重に対応していかなければいけないと、このように思っておるところでございますが、よりよい入札制度、また、透明性のある方法等を今後も研究をしていきたいと、このように思います。

以上です。

議長（熊谷直行） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（熊谷直行） ないようですので、これで質疑を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第61号は、会議規則第39条の規定によって、お手許に配りました議案付託表のとおり総務常任委員会に付託することにしたいと思えます。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、議案第61号は総務常任委員会に付託することに決定しました。

以上で本日の日程は全部終了しました。

お諮りします。

6月17日から6月22日まで、委員会審査のため本会議を休会したいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（熊谷直行） 異議なしと認めます。したがって、6月17日から6月22日まで本会議を休会することに決定いたしました。

次の本会議は6月23日、午前10時から再開します。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

（散会 午後1時27分）